

【地域活動ノート】

## 管理栄養士有資格者大学院生の特論演習科目を通じた 地域活性化の取組

——「北坂戸にぎわいサロン通信 薬学部医療栄養学科コラム&レシピ」の作成——

野村佳歩\*、塩原由菜\*\*、手塚宥哉\*\*、久保正徳\*\*、大澤吉弘\*\*\*、君羅好史\*\*\*\*、真野 博\*\*\*\*\*

### 活動の概要

「北坂戸にぎわいサロン」は坂戸市が北坂戸駅周辺のにぎわい再生と地域の活性化を目的とし城西大学並びに東京電機大学と連携し開設したものである。当講座に所属する大学院生の必修科目の栄養機能解析学特論演習において、「北坂戸にぎわいサロン」で配布する食育啓発活動媒体の作成を行なっている。本食育啓発活動媒体は栄養、食品機能性成分、地産地消、地元名産品に焦点をあて、超高齢社会を念頭に高齢者でも作りやすい、食べやすい、さらに仲間や家族を呼んで楽しめるなど社会的活性化も目的としている。本取組は、地域活性化とともに、管理栄養士資格を有する大学院生のアクティブラーニングとして機能している。

キーワード：北坂戸にぎわいサロン、地域活性化、教育方法、食育、管理栄養士

坂戸市は、北坂戸団地にぎわい再生事業として住宅団地再生に関して事業を実施する大学に対し、当該事業に要する経費を助成することにより、地域の活性化及び協働によるまちづくりの推進を目指している。具体的にはUR都市機構の施設に設置した太陽光発電システムによる売電収入で空き店舗を借上げ、大学と連携し、にぎわい再生の拠点施設である「北坂戸にぎわいサロン」を運営している。北坂戸駅の北口の「にぎわいサロン」を城西大学、南口の「にぎわいサロン」を東京電機大学が開設している。これらの施設は、地域住民が自由に活用できる。本学が関与している北口側の施設ののべの利用者数は、2015年は8,622名、2016年は10,286名、2017年は7,033名、2018年は6,957名、2019年は6,539名である。また、本施設の情報媒体として城西大学総務課が発行している「北坂戸にぎわいサロン通信」は、北坂戸駅周辺の泉町、上吉田、芦山町、伊豆の山町、末広町、溝端町、薬師町の5,863戸に回覧板として、また北坂戸団地商店会と北坂戸けやき通り商栄会の会員には個別に配布されている。「北坂戸にぎわいサロン通信」の内容は、本学の様々な「取組や情報」と「薬学部医療栄養学科コラム&レシピ」である（図1）。

一方、栄養機能解析学特論演習の授業の目的は「極めて高度な専門性と豊かな学識を有し、豊かな人間性と社会性を兼ね備え、地域および国際社会の発展を積極的にリードできるようになるため、最新の生命科学の進展の成果を基礎として、食品機能成分の生体作用を、遺伝情報の発現・制御（ゲノミクス）、タンパク質の機能発現・制御（プロテオミクス）、代謝物の変動の制御（メタボノミクス）、および物理化学的性質の情報に基づいて議論するための知識、態度、技能を自ら調査・解析し、プレゼンテーションによって修得す

- 
- \* 城西大学大学院薬学研究科薬科学専攻 博士後期課程3年
  - \*\* 城西大学大学院薬学研究科医療栄養学専攻 博士前期課程1年
  - \*\*\* 城西大学薬学部医療栄養学科助手
  - \*\*\*\* 城西大学薬学部医療栄養学科助教
  - \*\*\*\*\* 城西大学薬学部医療栄養学科教授



図1. 北坂戸にぎわいサロン通信 の見本  
2020年9月1日発行 (第65号)

る。」としている。そこで、本特論演習として、本演習を履修する大学院生が順番に、「食育啓発活動媒体」として「北坂戸にぎわいサロン通信」の「薬学部医療栄養学科コラム&レシピ」を作成する。1. 毎月一回発行 2. 講座のゼミで方針を発表 3. 原案を作成しゼミで発表 4. 本学総務課に原稿を送る 5. 出版物のJURA登録の5ステップを学生が行う。

学生は、「栄養量設定」、「栄養価計算」、「機能性成分」はもちろん「地産地消」、「地元名産品」に積極的に焦点をあて、超高齢社会を念頭に高齢者でも作りやすい、食べやすい、さらに仲間や家族を呼んで楽しめるなど「社会的活性化」をも目指し考案する。

2020年4月には一般財団法人 リモート・センシング技術センター (RESTEC) からの地域活性化を目的とした研究支援のための寄付金を活用し、これまでの「薬学部医療栄養学科コラム&レシピ」を1冊にまとめ、坂戸市役所、ときがわ町保健センターなどで配布するとともに、オープンキャンパス等でも活用している。



図2. 冊子化したレシピ集  
2016年3月から2020年3月の「薬学部医療栄養学科コラム&レシピ」を一冊にまとめた。

